



令和7年度

「全国学力・学習状況調査」の結果について



令和7年9月30日 西部管内の学校

10月2日 東部管内・県立・国立の学校

香川県教育センター 教育研究課

KEC 香川県教育センター
Kagawa Prefectural Education Center

報告書

- ※ 各校には、9月24日付で配付
- ※ 10月3日に、香川県教育センターWebサイトに、PDF版を掲載

本プレゼン資料

- ※ 香川県教育センターWebサイトに、PDF版を掲載

令和7年度 全国学力・学習状況調査
報告書

令和7年10月

香川県教育センター

「令和7年度
全国学力・学習状況調査」
報告書

	全国学力・学習状況調査
実施日	令和7年4月17日（木）
対 象	小学校 第6学年 中学校 第3学年
内 容 (教 科)	小学校 第6学年（国語、算数、理科） 中学校 第3学年（国語、数学、理科） ※ 中学校理科は、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式で実施 ※ 知識・技能等と、活用する力や構想を立て実践し評価・改善する力等を一体的に問う問題を出題 ※ 記述式の問題を一定割合で導入
内 容 (質問調査)	児童生徒質問調査（児童生徒の活用するICT端末等を用いて実施） 学校質問調査

本年度の報告書の構成

本日は

調査の結果から見られる特徴	P2
4つの特集	
特集1 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の 一体的な充実	P6
特集2 児童生徒主体のICT活用に向けて	P12
特集3 教職員の支え合う集団づくり	P14
特集4 開かれた学校づくり	P16
授業や取組の改善に役立つリンク集	P18
香川県重点項目に関する5つの質問事項	
Q1 学習意欲に関わる質問項目	P38
Q2 言語活動に関わる質問項目	P40
Q3 学習習慣に関わる質問項目	P42
Q4 自己有用感に関わる質問項目	P44
Q5 学校生活に関わる質問項目	P46
あのときの6年生は今？	P48

特集1において、授業改善の4つの視点に基づいてコラムを作成するとともに、「学力向上モデル校事業」における実績を記事にまとめる

授業改善に役立つリンク集を作成

令和4年時の小学6年生と、本年度中学3年生について、継続して調査されている質問項目の変容を記事にまとめる



調査の結果から見られる特徴

教科に関する調査

資料に書かれている文や図が示している意図は何かを考え、解釈して表現することや、知識・技能を様々な問題場面に生きて働くものとして習得することに課題がある。

国語

目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けことや、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに課題が見られた。

- 小学校国語 ③三（１） 正答率 41.2% ➡P57
- 中学校国語 ①四 正答率 29.9% ➡P80

算数・数学

数の表し方の仕組みや単位となる数に着目して計算の仕方を考察することや、条件を変えた際、変わらない関係や変わる関係を見だし、証明を評価・改善することに課題が見られた。

- 小学校算数 ③（２） 正答率 24.4% ➡P64、65
- 中学校数学 ⑨（２） 正答率 36.8% ➡P88、89

理科

理科学習で得た概念を使い、ものづくりや追加の実験を発想して表現することや、身に付けた知識を身近な現象で活用できる程度に概念を理解することに課題が見られた。

- 小学校理科 ②（２） 正答率 42.5% ➡P73
- 中学校理科 ①（３） 正答率 36.0% ➡P96

質問調査

各校で「協働的な学び」の取組が大切にされている。

- 「☐31 学習指導において、児童生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫した」と肯定的に回答した学校の割合は、小・中学校で 90%を超えている。 ➡P8

「自分には、よいところがあると思う」と肯定的に回答した児童生徒の割合が増加している。

- 「☐5 自分には、よいところがあると思う」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校で 85.0%、中学校で 82.6%であり、R3年度以降、最も高い割合であった。 ➡P44

「学校に行くのは楽しいと思う」と肯定的に回答した児童生徒の割合が増加している。

- 「☐12 学校に行くのは楽しいと思う」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校で 85.6%、中学校で 84.2%であった。 ➡P46

学校の授業時間以外の１日当たりの勉強時間は減少傾向にある。

- 「☐17 普段、１日当たり １時間以上勉強している」と回答した児童生徒の割合は、R3年度以降、全国的に減少傾向が見られる。 ➡P42

一人一台端末の使用頻度は増加している。

- 「☐28 ICT 機器を週 3 回以上使用している」と回答した児童生徒の割合は、R6年度より、小学校で 15pt、中学校で 12pt 増加したが、全国と比較すると下回っている。児童生徒が目的をもって主体的に ICT を活用できるようにすることが大切である。 ➡P12

教科に関する調査

資料に書かれている文や図が示している意図は何かを考え、解釈して表現することや、知識・技能を様々な問題場面に生きて働くものとして習得することに課題がある。

国 語

目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることや、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに課題が見られた。

- 小学校国語 3(1) 正答率 41.2% P57
- 中学校国語 1四 正答率 29.9% P80

算数・数学

数の表し方の仕組みや単位となる数に着目して計算の仕方を考察することや、条件を変えた際、変わらない関係や変わる関係を見だし、証明を評価・改善することに課題が見られた。

- 小学校算数 3(2) 正答率 24.4% P64、65
- 中学校数学 9(2) 正答率 36.8% P88、89

理 科

理科学習で得た概念を使い、ものづくりや追加の実験を発想して表現することや、身に付けた知識を身近な現象で活用できる程度に概念を理解することに課題が見られた。

- 小学校理科 2(2) 正答率 42.5% P73
- 中学校理科 1(3) 正答率 36.0% P96

共通した課題

資料に書かれている文や図が示している意図は何かを考え、解釈して表現することや、知識・技能を様々な問題場面に生きて働くものとして習得することに課題がある。

全体的な状況

調査区分	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
県(公立)平均正答率(%) 中学校理科 平均IRTスコア	67	59	57	53	49	504
全国(公立)平均正答率(%) 中学校理科 平均IRTスコア	67 66.8	58 58.0	57 57.1	54 54.3	48 48.3	503
県と全国との差(pt)	0	+1	0	-1	+1	

小・中学校ともに、おおむね全国平均と同等

調査の結果から見られる特徴

教科に関する調査

資料に書かれている文や図が示している意図は何かを考え、解釈して表現することや、知識・技能を様々な問題場面に生きて働くものとして習得することに課題がある。

国語

目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けことや、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに課題が見られた。

- 小学校国語 3三(1) 正答率 41.2% ➡P57
- 中学校国語 1四 正答率 29.9% ➡P80

算数・数学

数の表し方の仕組みや単位となる数に着目して計算の仕方を考察することや、条件を変えた際、変わらない関係や変わる関係を見だし、証明を評価・改善することに課題が見られた。

- 小学校算数 3(2) 正答率 24.4% ➡P64、65
- 中学校数学 9(2) 正答率 36.8% ➡P88、89

理科

理科学習で得た概念を使い、ものづくりや追加の実験を発想して表現することや、身に付けた知識を身近な現象で活用できる程度に概念を理解することに課題が見られた。

- 小学校理科 2(2) 正答率 42.5% ➡P73
- 中学校理科 1(3) 正答率 36.0% ➡P96

質問調査

1

各校で「協働的な学び」の取組が大切にされている。

- 「³¹学習指導において、児童生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫した」と肯定的に回答した学校の割合は、小・中学校で90%を超えている。 ➡P8

2

「自分には、よいところがあると思う」と肯定的に回答した児童生徒の割合が増加している。

- 「⁵自分には、よいところがあると思う」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校で85.0%、中学校で82.6%であり、R3年度以降、最も高い割合であった。 ➡P44

3

「学校に行くのは楽しいと思う」と肯定的に回答した児童生徒の割合が増加している。

- 「¹²学校に行くのは楽しいと思う」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校で85.6%、中学校で84.2%であった。 ➡P46

4

学校の授業時間以外の1日当たりの勉強時間は減少傾向にある。

- 「¹⁷普段、1日当たり1時間以上勉強している」と回答した児童生徒の割合は、R3年度以降、全国的に減少傾向が見られる。 ➡P42

5

一人一台端末の使用頻度は増加している。

- 「²⁸ICT機器を週3回以上使用している」と回答した児童生徒の割合は、R6年度より、小学校で15pt、中学校で12pt増加したが、全国と比較すると下回っている。児童生徒が目的をもって主体的にICTを活用できるようにすることが大切である。 ➡P12

各校で「協働的な学び」の取組が大切にされている。

- 「■³¹ 学習指導において、児童生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫した」と肯定的に回答した学校の割合は、小・中学校で90%を超えている。 ➡ P8

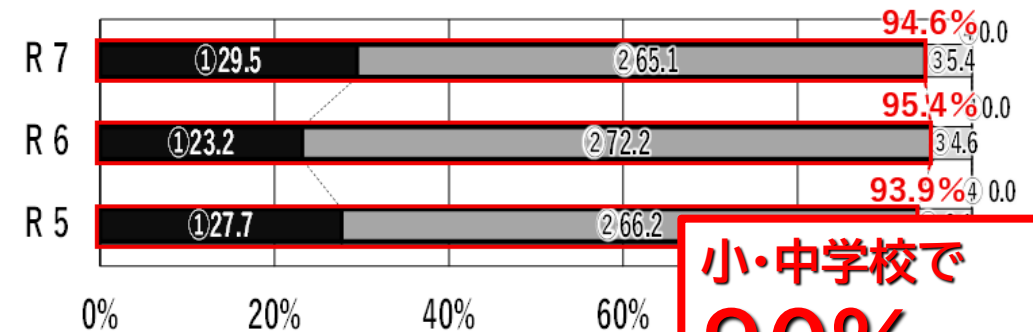


➡ P8 特集1 「協働的な学び」の進捗状況は？

- ³¹ 調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、学習指導において、児童生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか

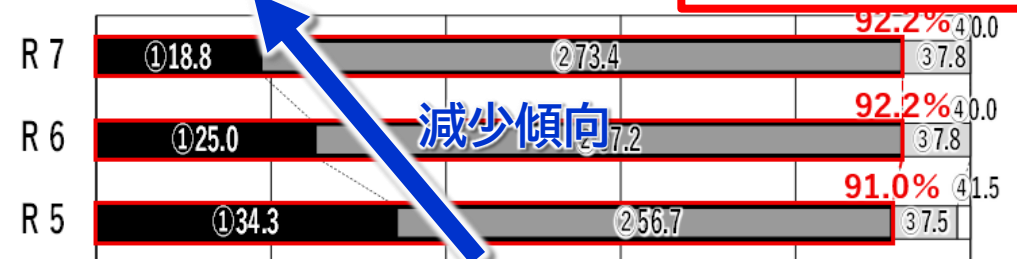
小学校(香川)

【学校質問調査】



小・中学校で
90%を上回る

中学校(香川)



減少傾向



学力向上モデル校事業の取組

中学校1年 社会科の実践

「自分には、よいところがあると思う」と肯定的に回答した児童生徒の割合が増加している。

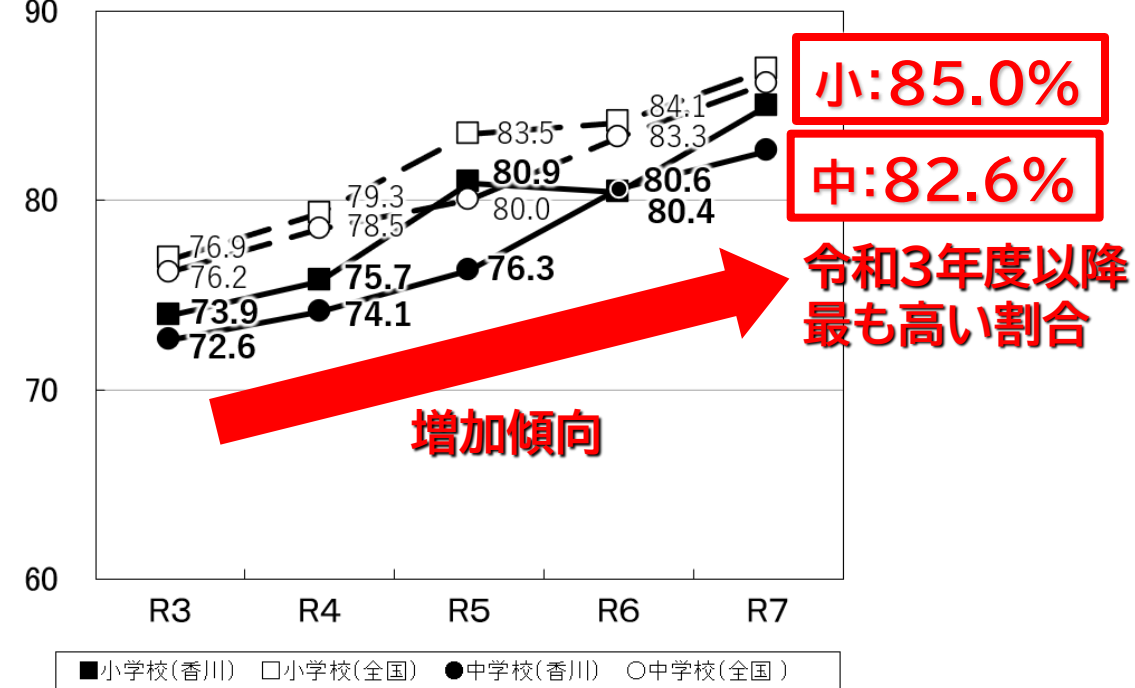
- 「^{□5}自分には、よいところがあると思う」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校で 85.0%、中学校で 82.6%であり、R3年度以降、最も高い割合であった。

➡P44

□5 自分には、よいところがあると思いますか

【児童生徒質問調査】

(%) 「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」と回答

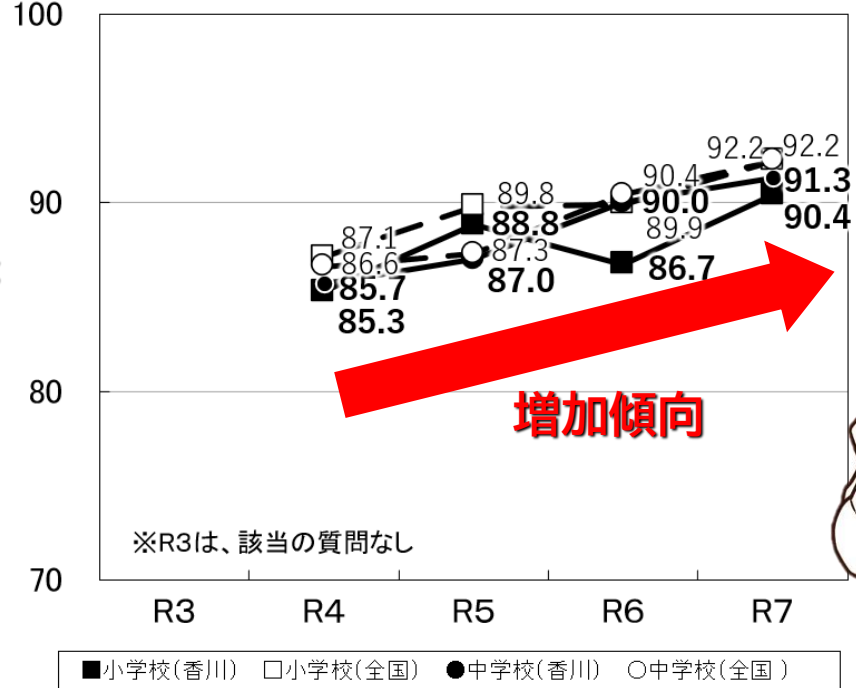


➡ P44 Q4 自己有用感等に関わる質問事項

□6 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

【児童生徒質問調査】

(%) 「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」と回答



傾聴

受容

共感



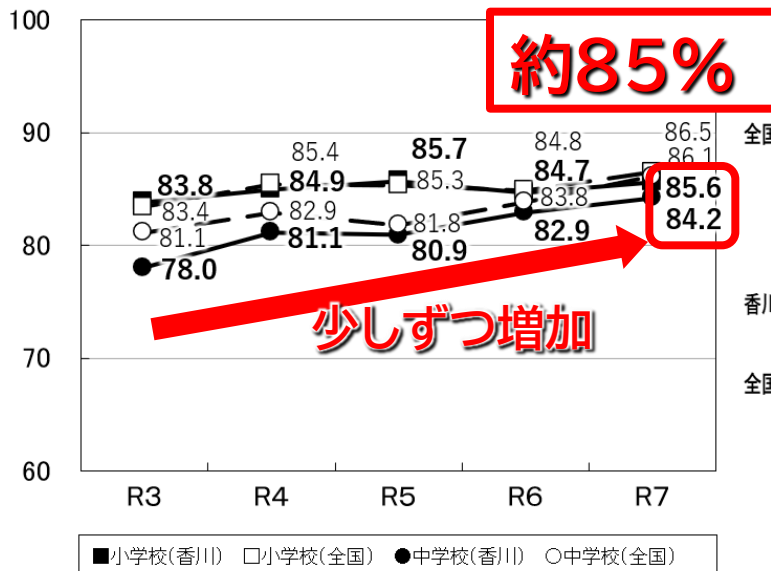
「学校に行くのは楽しいと思う」と肯定的に回答した児童生徒の割合が増加している。

- 「□¹² 学校に行くのは楽しいと思う」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校で 85.6%、中学校で 84.2%であった。 ➡P46

➡ P46 Q5 学校生活に関わる質問事項

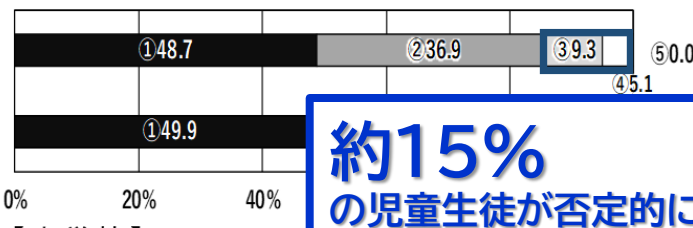
□12 学校に行くのは楽しいと思いますか

(%) 「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」と回答

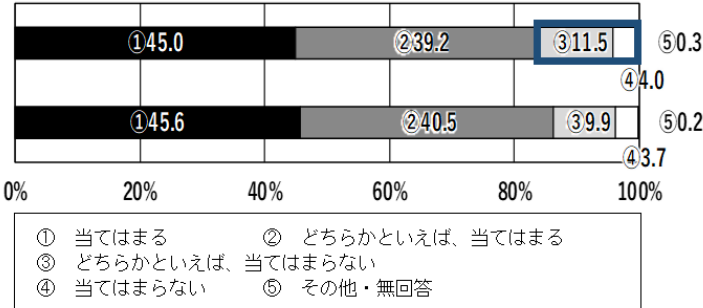


【児童生徒質問調査】

【小学校】



【中学校】

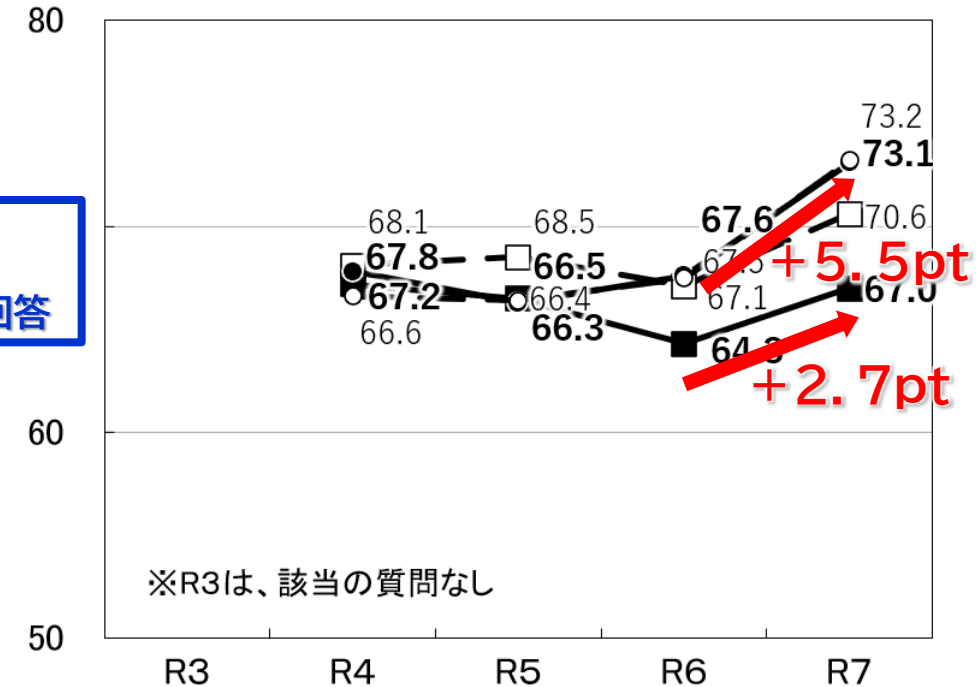


- ① 当てはまる
- ② どちらかといえば、当てはまる
- ③ どちらかといえば、当てはまらない
- ④ 当てはまらない
- ⑤ その他・無回答

□10 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか

【児童生徒質問調査】

(%) 「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」と回答



※R3は、該当の質問なし

学校の授業時間以外の1日当たりの勉強時間は減少傾向にある。

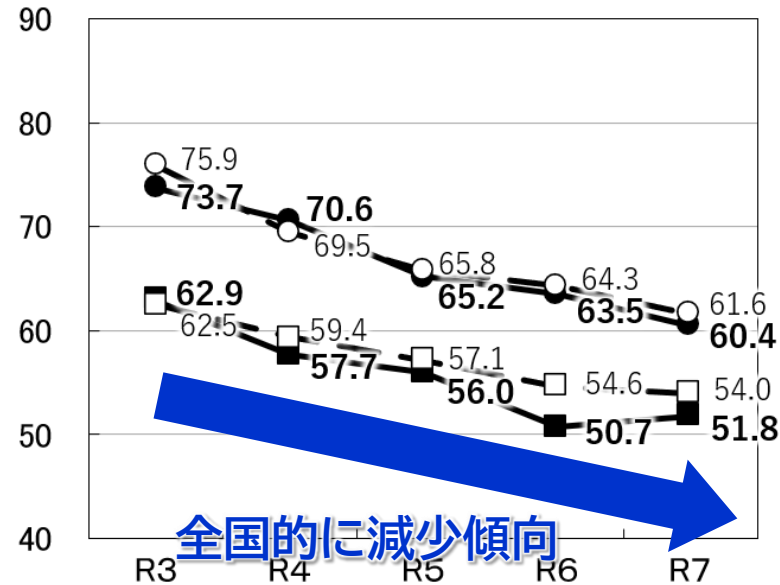
- 「□¹⁷ 普段、1日当たり1時間以上勉強している」と回答した児童生徒の割合は、R3年度以降、全国的に減少傾向が見られる。 → P42

→ P42 Q3 学習習慣に関わる質問事項

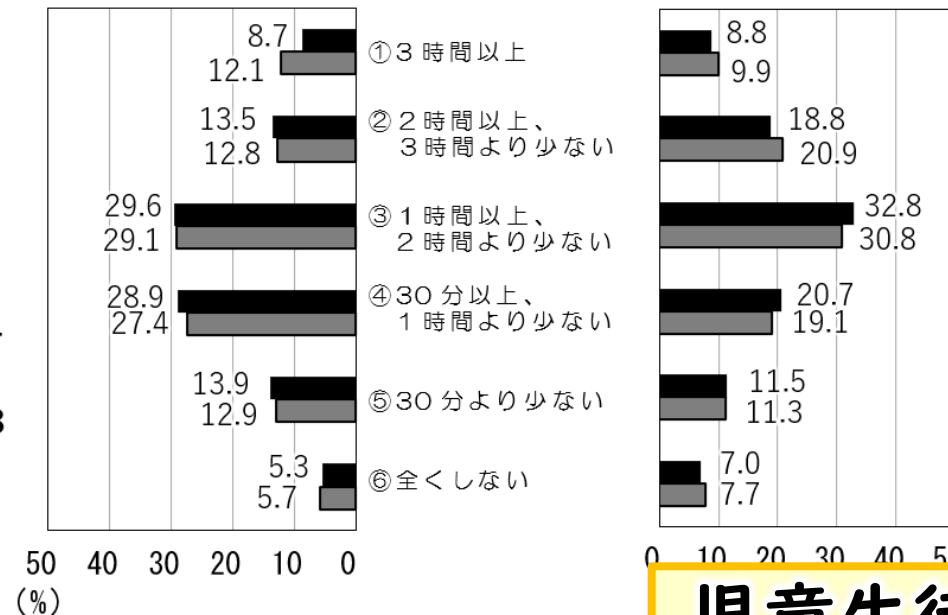
□17 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか

【児童生徒質問調査】

(%) 「3時間以上」+「2時間以上、3時間より少ない」+「1時間以上、2時間より少ない」と回答



家庭学習の時間の分布状況



児童生徒の興味関心に応じて
主体的に学べる環境づくり

一人一台端末の使用頻度は増加している。

- 「□²⁸ICT 機器を週3回以上使用している」と回答した児童生徒の割合は、R6年度より、小学校で 15pt、中学校で 12pt 増加したが、全国と比較すると下回っている。児童生徒が目的をもって主体的に ICT を活用できるようにすることが大切である。 ➡P12

使った！



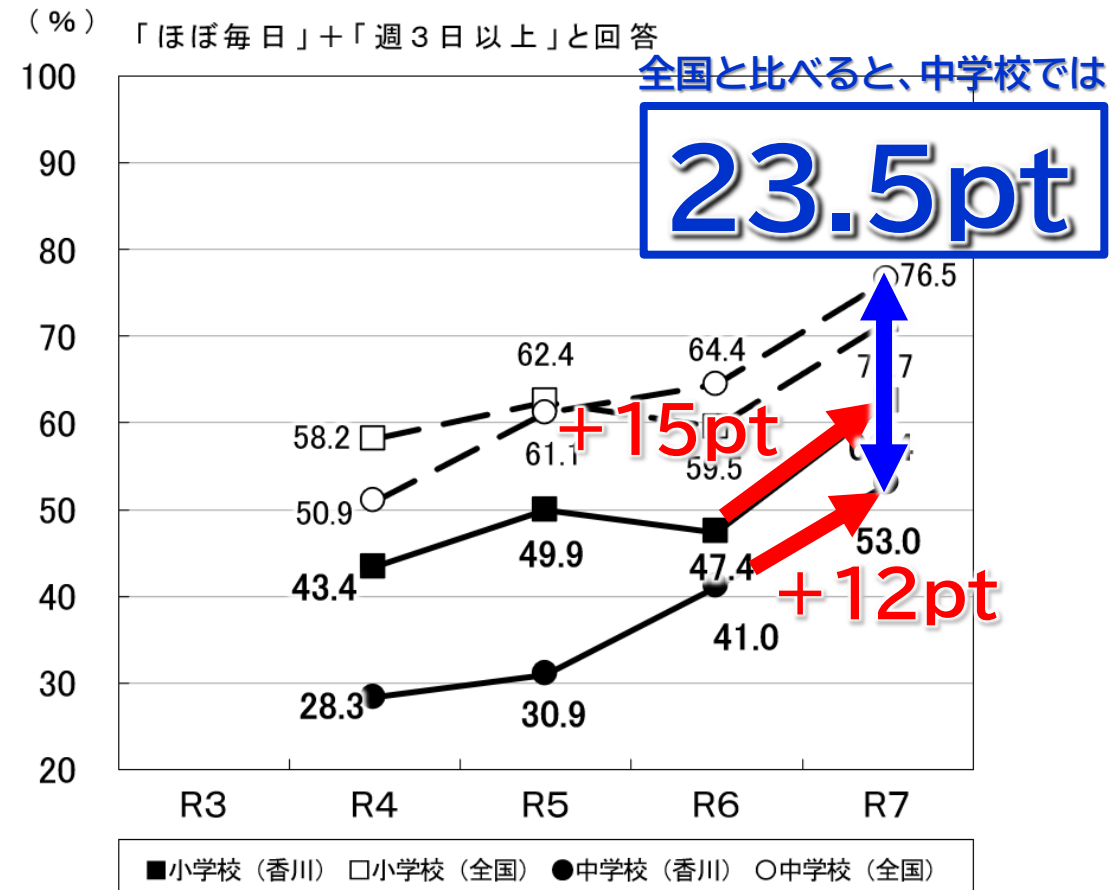
児童生徒が目的をもって主体的にICTを活用できるようにする

➡ P12

特集2 児童生徒主体のICT活用に向けて

□²⁸ 5年生まで(1、2年生のとき)に受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか

【児童生徒質問調査】



特集1 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の
一体的な充実

特集2 児童生徒主体のICT活用に向けて

特集3 教職員の支え合う集団づくり

特集4 開かれた学校づくり

全ての児童生徒に「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る

一人一人の子どもに確かな学力を ～全教職員で～

生きる力

学びに向かう力・人間性等

知識・技能

思考力・判断力・表現力等

授業改善の視点

- ①学習環境
- ②学びがいのある課題設定
- ③自己選択・自己決定
- ④学びの過程の振り返り

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

①学習環境

②学びがいのある課題

③自己選択・自己決定

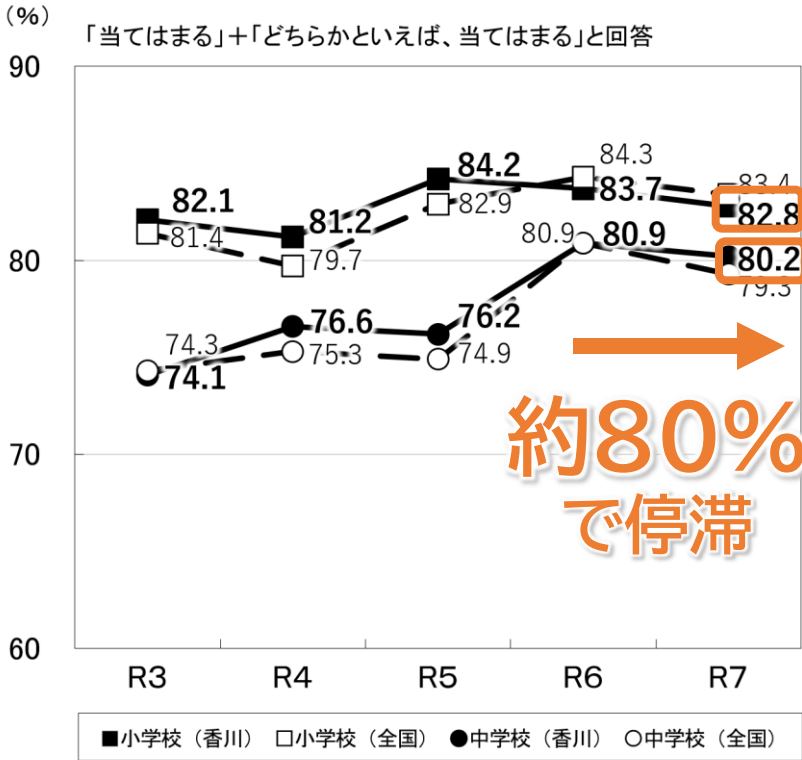
④学びの過程の振り返り

授業づくりの「三訓」 しかけて待って 語らせつないで 認め励ます

対応する質問の調査結果を分析

「個別最適な学び」の進捗状況は？

□34 5年生まで(1、2年生のとき)に受けた授業は、自分にあった
教え方、教材、学習時間などになっていましたか
【児童生徒質問調査】

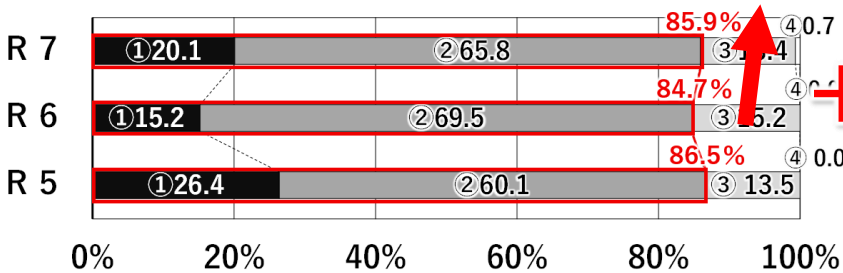


小82.8%
中80.2%

約80%
で停滞

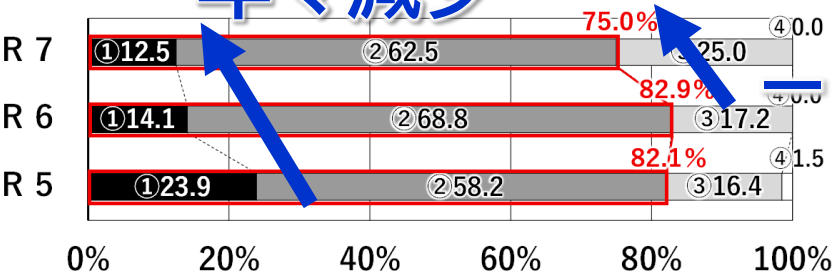
■30 調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、学習指
導において、児童(生徒)一人一人に応じて、学習課題や活動を
工夫しましたか
【学校質問調査】

小学校(香川)



+1.2pt

中学校(香川)



年々減少

-7.9pt

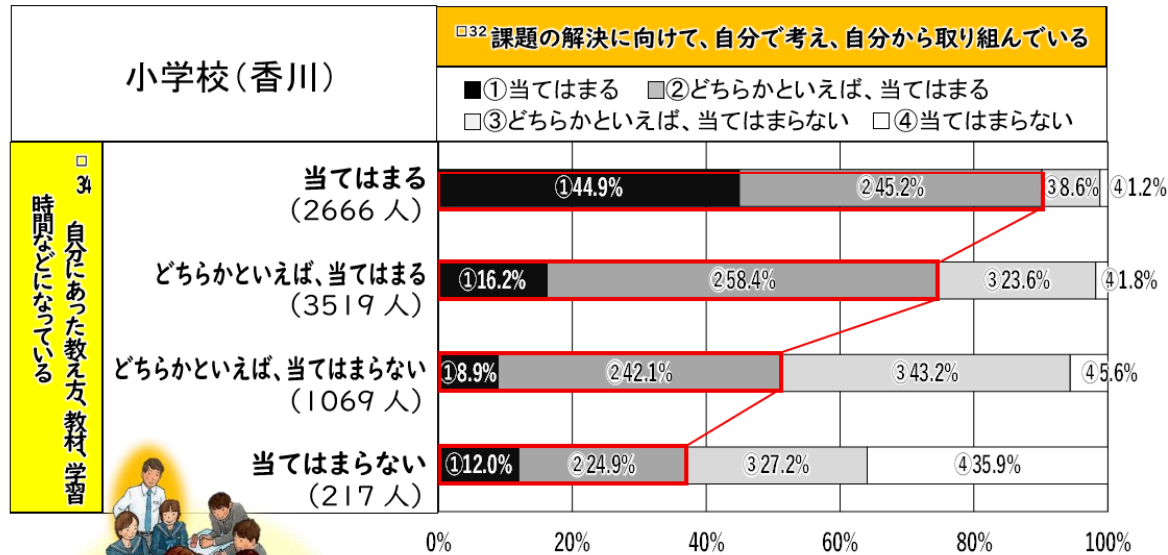
■ ①よく行った ■ ②どちらかといえば、行った
□ ③あまり行わなかった □ ④全く行わなかった

取組を通して、難しさを感じているのではないかな？

「個別最適な学び」の目的を考える

クロス集計

- 34 自分にあった教え方、教材、学習時間などになっている
×
□32 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる



全ての児童生徒が
主体的に学ぶ楽しさを実感

児童生徒自身が自分の特性や
学び方を自覚できるようにする

学力向上モデル校事業の取組

小学校3年 国語科の実践

本年度の「学力向上モデル校事業」、小学校3年生国語科での実践です。「自分が選んだ本のあらすじをまとめて紹介する」という単元のゴールを設定し、単元のはじめに、児童とともにゴールまでの見通しを話し合い、学習計画を立てました。その際、「いきなり長い文章は難しい」という児童の意見を取り入れ、まず簡単な物語で練習をする時間を設けています。

本時では、1年生で学習した簡単な物語文を扱い、第一場面を全体で読み解きながら、あらすじをまとめるコツを確認しました。その後、各自が紹介したい場面を選んで取り組めるようにし、主体性を促しました。

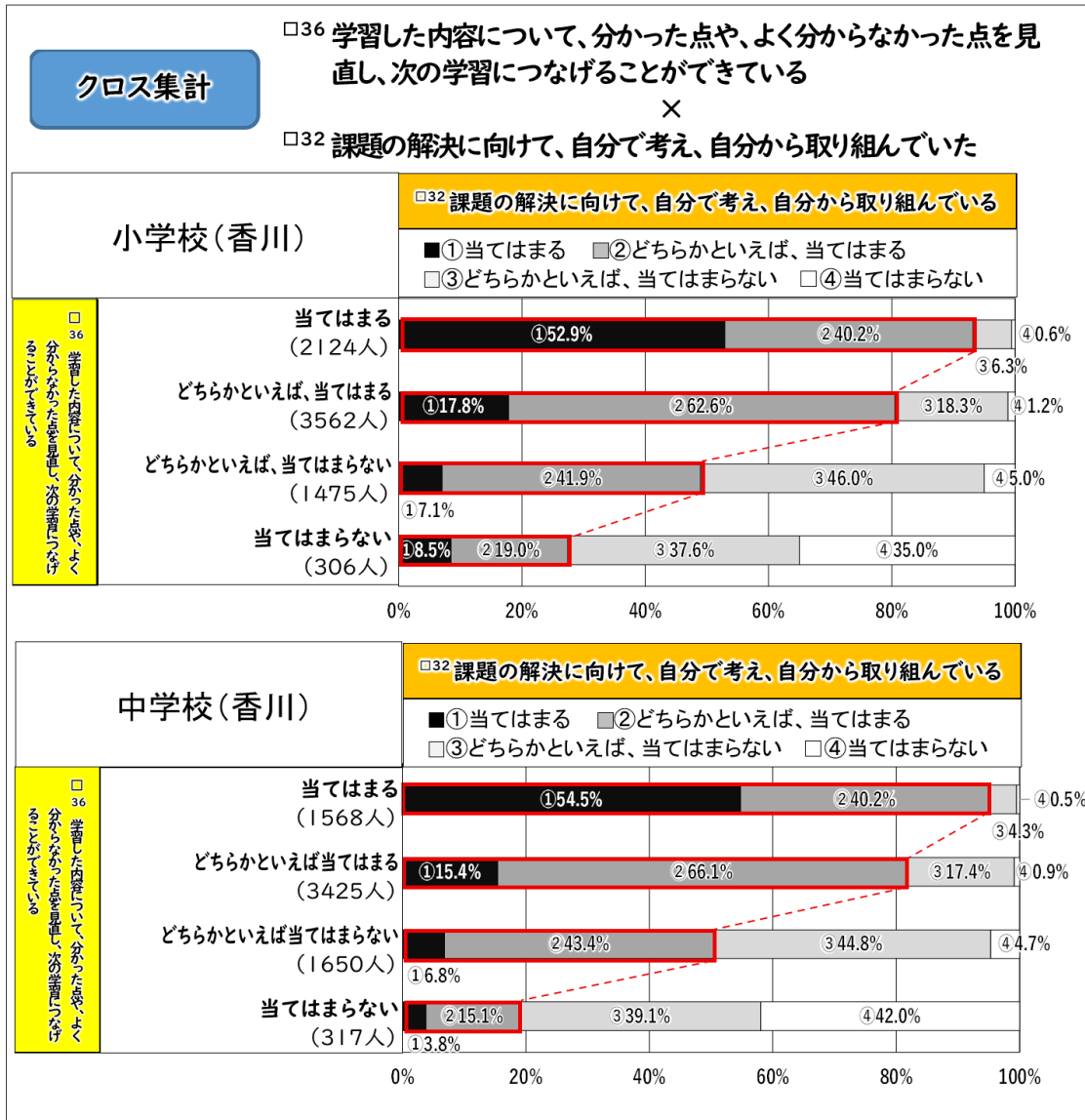
本時の授業を通して、「自分たちの力でできた」という達成感を得ることが、単元を通した主体的な学びにつながりました。



単元で学びをデザイン

児童とともに考え、委ねる

振り返りの内容やタイミングを工夫する



自分の学習状況や成長を客観的に捉えられているからだろう



次の学習へ主体的に取り組む力につながっているのではないか



児童生徒自身が自分の特性や学び方を自覚できるように

学習環境
自己選択・自己決定
学びの過程の振り返り

検証から改善へ

(1) 教科に関する調査の課題に対する授業改善の方策

課題1 資料に書かれている文や図が示している意図は何かを考え、解釈して表現する

授業すべきこと！
 資料や友達の発言の意図などについて、自分の言葉で説明する時間をとる

課題1を解決するための方策として、例えば、「小学校算数設問4」のような、図や表、資料などを示したときに、その図や表、資料などが、何を表そうとしているのか、また、何を問おうとしているのか、児童生徒がその意図を説明する活動を仕組むことが大切です。

その他にも、国語では、具体的なインタビュー場面や資料等を見ながら、発言者がなぜそのように発言したのかをグループなどで説明し合う活動を取り入れたり、理科では、実験の際に、なぜその実験方法がよいのか、なぜその条件で実験するのかといったことを児童生徒が説明する時間を設定したりすることが効果的です。

課題2 知識・技能を様々な問題場面に生きて働くものとして習得する

授業すべきこと！
 知識・技能を活用する場面を授業や生活場面に意図的に位置付ける

課題2を解決するための方策として、例えば、「小学校理科設問2(2)」のように、「電流の流れが輪になっていると電流が流れる」という知識を、実際のおもちゃ作りなどに活用しながら、より習得を促すことが考えられます。

その他にも、国語では、漢字を生活場面の中で使用したり、自分の書いた

家に帰ったあさひさんは、つかかえ用のハンドソープがのっている広告を見ました。広告には、つかかえ用のハンドソープが「10%増量」と書かれています。増量前のつかかえ用のハンドソープの量は 800mL です。

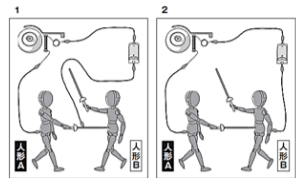


増量後のハンドソープの量は、増量前のハンドソープの量の何倍ですか。上の①にあてはまる数を、下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

R7 小学校算数設問 4 より

人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、かぬ（ベル）が鳴る」のは、どのような回路でしょうか。

下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。



(2) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業改善の方策

◆ 学習環境

ア R7中学校国語設問 2 より

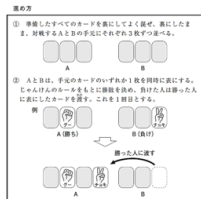


アの設問では、「村田さんが、国語の時間に学校の活動を地域に広げるアイデアについての提案スピーチを行うために事前リハーサルを実施する」という学習場面が示されています。ここでは、生徒の必要に応じてスライドを提示しながらスピーチができる機会を確保しています。

このように、日常的に ICT を活用できる機会を確保するなど、学習環境を整備することが大切です。P12 からの特集2では、児童生徒主体の ICT 活用に向けて記事を掲載していますので、ぜひご覧ください。

◆ 学びがいのある課題設定

イ R7中学校数学設問 7 より

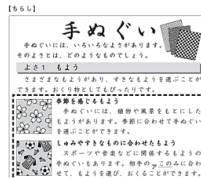


イの設問では、「優斗さんと芽衣さんが、地域イベントで『じゃんけんカードゲーム』を計画する」という学習場面が示されています。ゲームの進め方を考える中で、様々な場面があることに気づき、「それぞれに勝ちやすさが異なるのではないか」という疑問を持ちます。学習は、その疑問を解決しながら進んでいきます。

このように、児童生徒の知的好奇心を喚起できるよう、実社会や実生活における問題場面とつなぐことで、児童生徒の「解決したい」という思いや願いを引き出すなど、児童生徒にとって学びがいのある課題を設定することが大切です。

◆ 自己選択・自己決定

ウ R7小学校国語設問 2 より



ウの設問では、「伝統工芸品について推薦する『ちらし』を書くために、『ちらし』の中の説明する文章等を吟味する」という学習場面が示されています。山田さんは、伝統工芸品の中から、自分が推薦したい「手ぬぐい」を選び、山田さん自身が見出した「手ぬぐい」のよさを、「ちらし」に表現しようとしています。

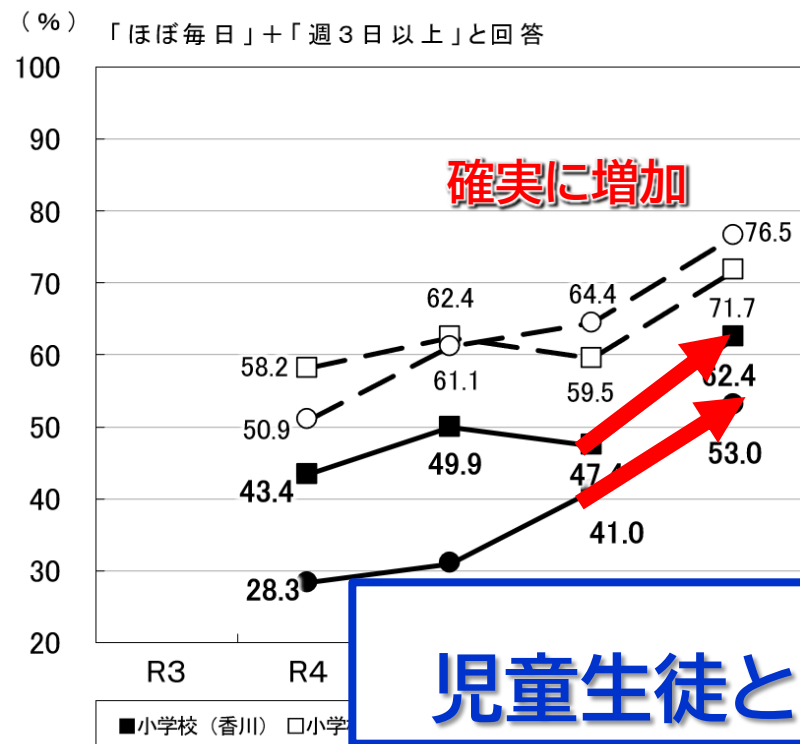
このように、「推薦する文章の書き方を学ぶ」という単元の大きな目標は共通する中でも、全員が同じ道筋で学習を進めるだけでなく、学習教材や問題を選

報告書に示している分析の仕方や、改善の方向性を、自校の調査結果の分析の参考にする

教師主導から、児童生徒が主体的に活用できるような取組が必要

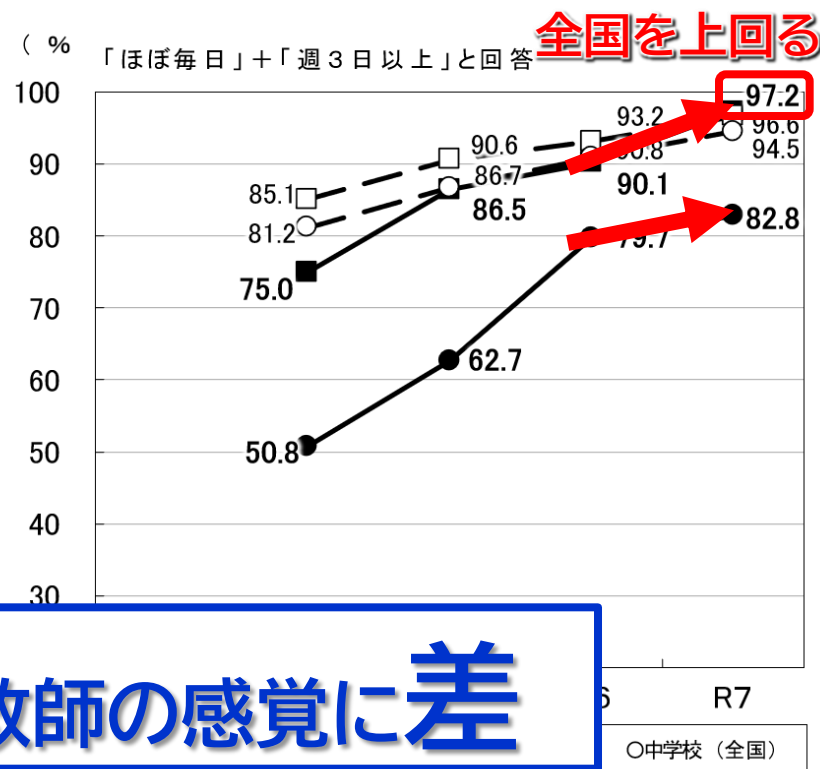
□28 5年生まで(1、2年生のとき)に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

【児童生徒質問調査】



■58 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

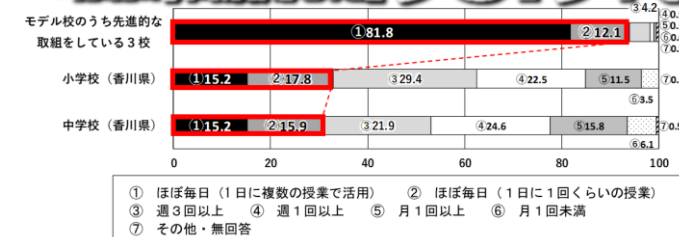
【学校質問調査】



ICT活用推進モデル校

※先進的な取組をする3校

「ほぼ毎日活用した」93.9%



文具のように活用

児童生徒が目的的にICTを活用できるようにする

情報活用能力の育成に課題

□29-1～29-4 あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器（インターネット）を使って・・・【児童生徒質問調査】

「とてもそう思う」＋「そう思う」と回答（％）

小学校

中学校

文章の作成

文章の作成

プレゼンの作成

プレゼンの作成

図、表、グラフ、思考ツール
などで情報を整理

図、表、グラフ、思考ツール
などで情報を整理

— 小学校（香川） ——— 小学校（全国）

— 中学校（香川） ——— 中学校（全国）

□29-2
インターネットを使っ
て情報を収集する
（検索する、調べるな
ど）ができると思う

□29-2
インターネットを使っ
て情報を収集する
（検索する、調べるな
ど）ができると思う

児童生徒が主体的にICTを活用して取り組む学習の充実に向けた調査研究

授業改善！「学び手としての主人公」になるICT活用



5つの視点のうち、
どの視点を取り入れ
て学習活動を改善す
るかを考えます。



児童生徒がどのタイミ
ングでどの機能を活用すれ
ば視点の効果がでるのか
を考えます。

教師の授業改善に関わる
ICT活用5つの視点

- A 多様性に対応する
- B 多様性を生かす
- C 学びの状況をとらえさせる・とらえる
- D ベストミックスに組み合わせる
- E 教室外とつなぐ

児童生徒の学び方に関わる
ICT活用3つのキーワード

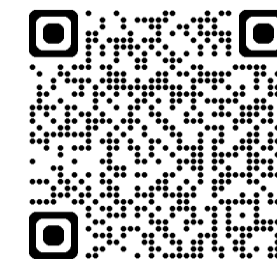
- A 必要なタイミング
機能は共通。活用する時は自分の必要な時に
- イ ICT(機能)を取捨選択
機能は自分の必要なものを、活用する時は共通
- ウ いつでも自由に
機能も活用する時も、自分の必要なものを必要な時に

※ 令和6年度 香川県教育センター研究発表会 調査研究2発表資料より引用

資料特設サイト

（各校での授業研究、研修にご活用ください）

<https://www.kagawa-edu.jp/educ01/section/research/jouhou#frame-969>



KEC 香川県教育センター
Kagawa Prefectural Education Center

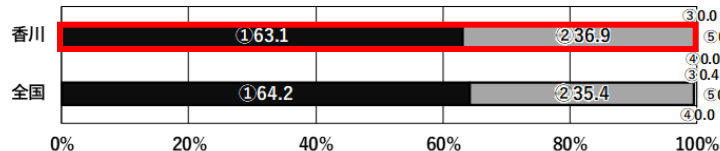
これからの社会において、自らの考えを整理して発信する資質・能力の育成は重要

チームで支える職場づくりについて

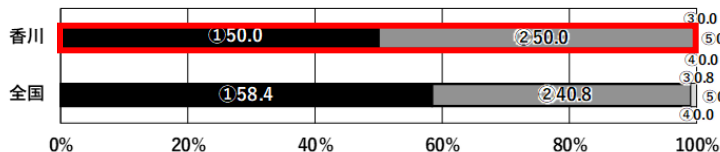
【適切な役割分担や連携協働】

■21 学校運営上の課題への対応に当たっては、各教職員（支援スタッフを含む）の専門性を活かせるよう適切な役割分担や連携協働をしていますか
【学校質問調査】

【小学校】



【中学校】

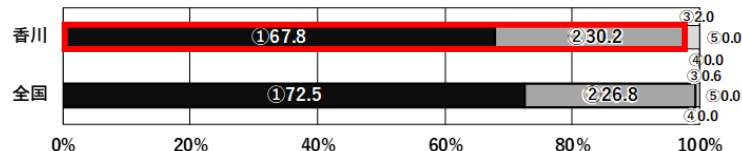


■ ① そう思う □ ② どちらかといえば、そう思う
□ ③ どちらかといえば、そう思わない □ ④ そう思わない
■ ⑤ その他、無解答

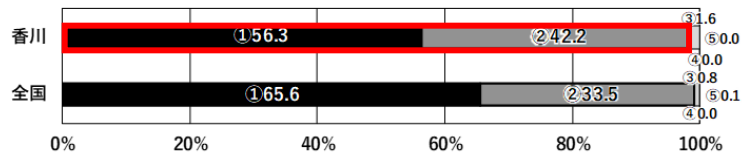
【組織的に対応する体制の構築】

■23 教職員が困っているとき、管理職と教職員との間で随時相談できるなど組織的に対応する体制を構築していると思いますか
【学校質問調査】

【小学校】



【中学校】



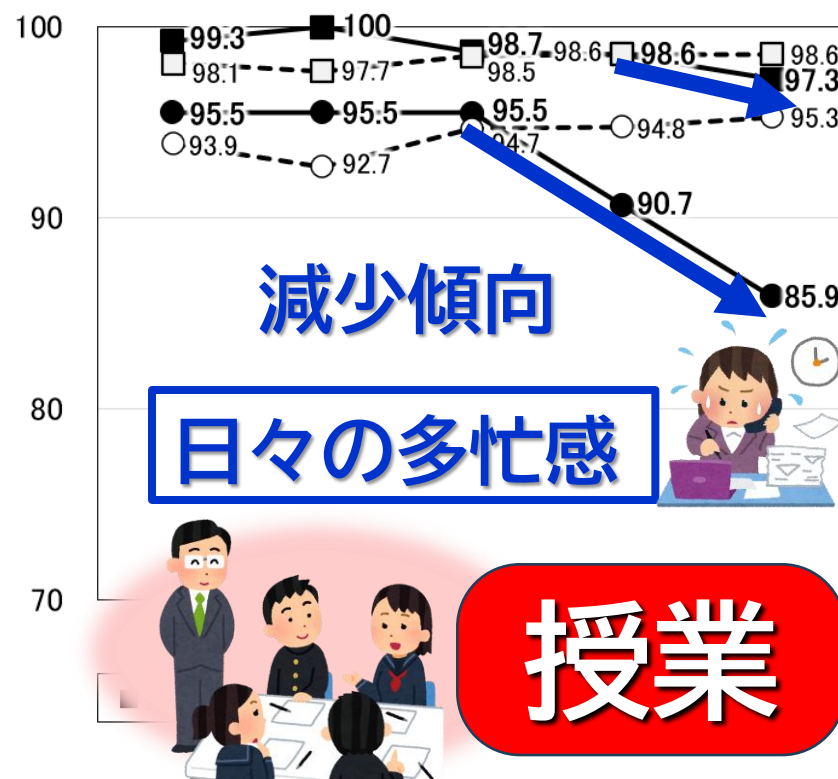
■ ① そう思う □ ② どちらかといえば、そう思う
□ ③ どちらかといえば、そう思わない □ ④ そう思わない
■ ⑤ その他、無解答

日々の授業や生徒指導上の問題について、相談できる環境が整っている

実践的な研修の実施状況

■18 授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか
【学校質問調査】

(% 「よくしている」+「どちらかといえば、している」と回答)



工夫して研修の機会を得る

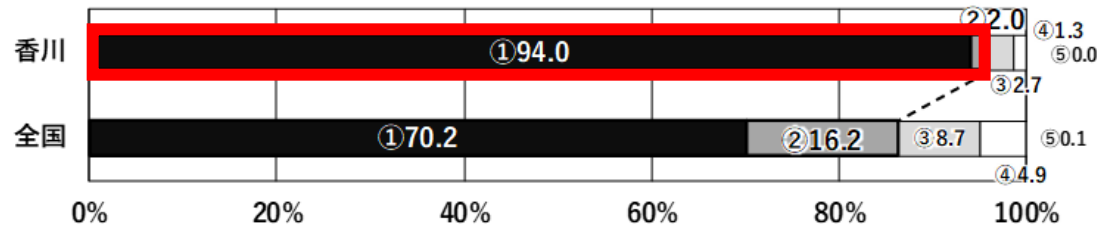
学校と地域や保護者の相互理解が進む

【保護者や地域の意見を学校運営に反映】

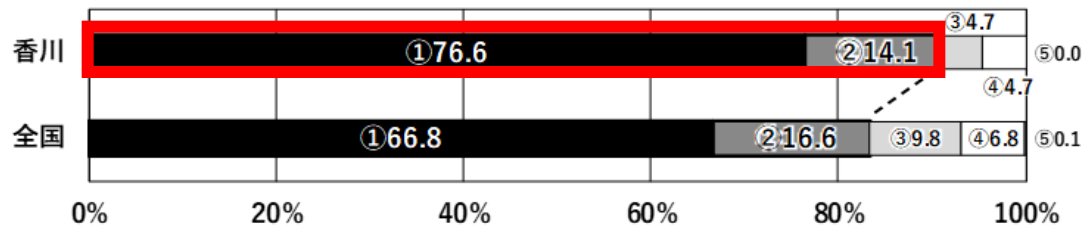
■ 75 コミュニティ・スクール等の仕組みを活用して、保護者や地域住民の意見を学校運営に反映していますか

【学校質問調査】

【小学校】



【中学校】



① コミュニティ・スクールの仕組みを活用して反映している

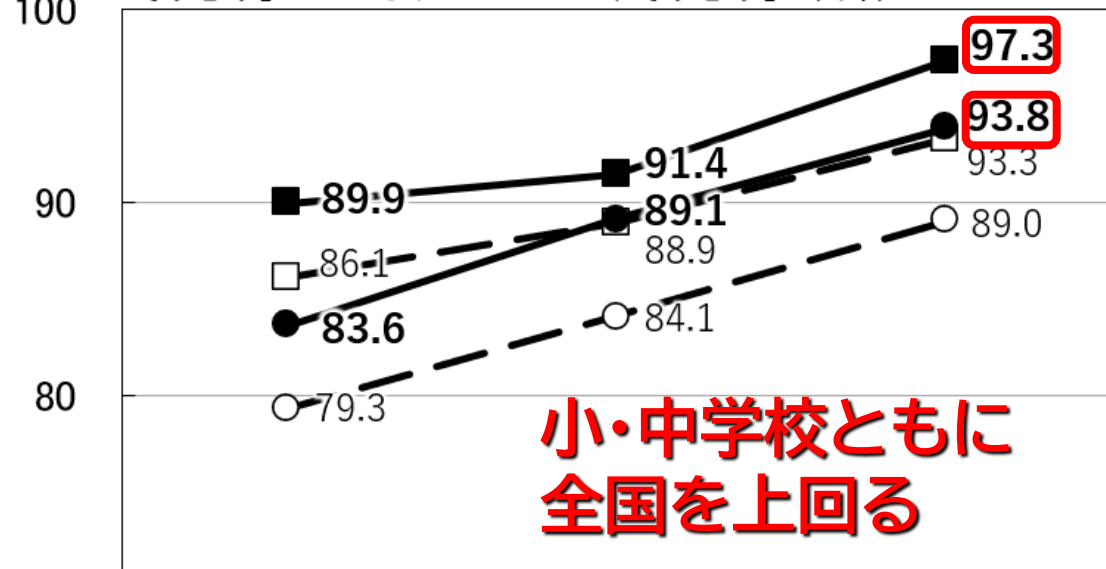
【学校と地域や保護者の相互理解】

■ 77 コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか

【学校質問調査】

(%)

「そう思う」+「どちらかといえば、そう思う」と回答



小・中学校ともに
全国を上回る

学校運営に関して、積極的に保護者や地域と関わり、ともに児童生徒を育てようとする意識が高まっている

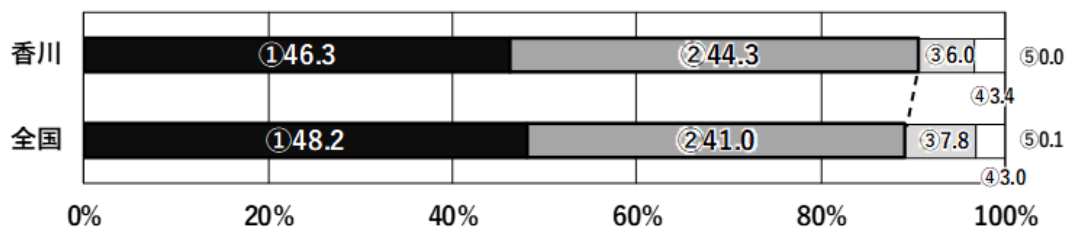
学校・家庭・地域のさらなる連携に向けて

【保護者や地域住民との協働による活動】

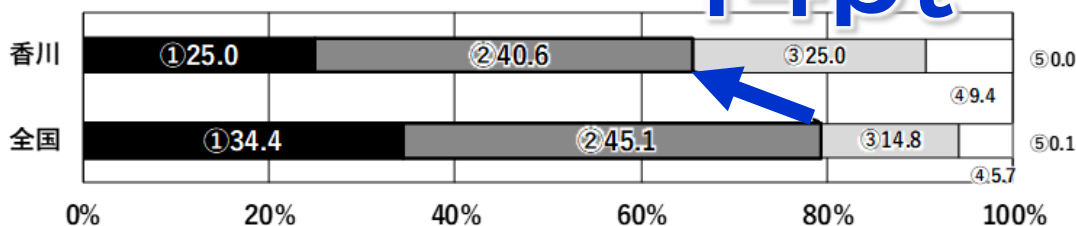
■ 76 地域学校協働活動の仕組みを生かして、保護者や地域住民との協働による活動を行いましたか

【学校質問調査】

【小学校】



【中学校】



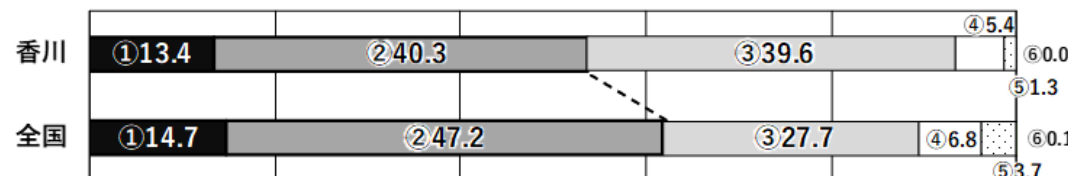
—14pt

【教員の業務負担軽減への効果】

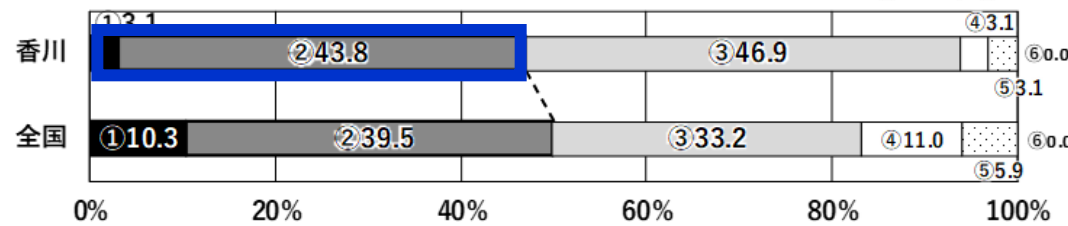
■ 79 コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組は、教員の業務負担軽減に効果がありましたか

【学校質問調査】

【小学校】



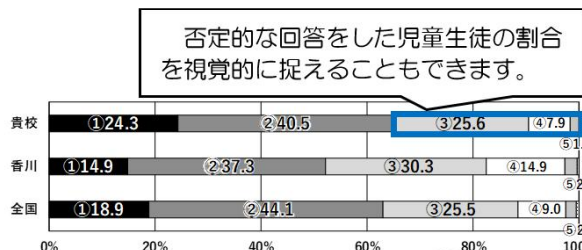
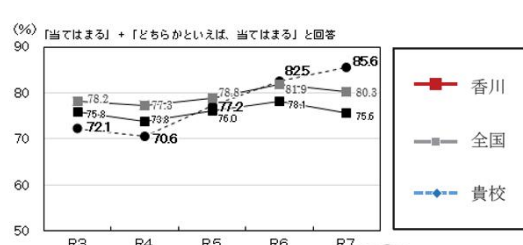
肯定的回答50%未満



教員の業務負担軽減につながるような協働活動を推進

自校の課題を把握し、改善に生かすために

- 目的に応じたグラフを用いて、児童生徒の状況を捉える。



- 学校の取組と、児童生徒の意識の変化や教科に関する調査結果との関連を図る。

(例)

現職教育テーマの「主体的に学ぶ子どもの育成」に、関連する質問項目はどれだろうか？

どのような取組が成果につながったのだろうか？



児童生徒質問調査だけでなく、学校質問調査の項目も分析しよう。

教科の調査では、どの調査問題が「読解力の育成」に関わっているのだろうか？

そのうえで

- 育成したい力を具体化したり、現時点での取組を見直したりして、改善を図る。
- 全国調査と県調査の結果を関連させて、PDCA サイクルを検証する。



活用ツールの使い方だけでなく、調査結果の活用や調査結果を基にした取組等、各学校で困っていることがありましたら、香川県教育センターの「研究相談」や「研修サポート」をご利用ください。

活用ツール (Excelファイル)

KEC 香川県教育センター
Kagawa Prefectural Education Center

教職員IDによるログイン

←最初にクリック。ログイン後に非公開のページが表示されます。

お知らせ

学校・教職員

児童生徒・保護者

センターについて

令和7年度 全国学力・学習状況調査
報告書活用ツール

ダウンロードして、データを読み込むだけ
全国と香川県の状況に加え、貴校の状況をグラフや表、経年比較まで、一目で確認できます
香川県内の小・中学校、教育委員会、ログインしてご利用ください。

子ども主体の
授業改善
(研究)

個別最適・協働的な
教師の学び
(研修)

いろいろな窓口で
教育相談
(相談)

ひと・もの・ことで
支援
(カリキュラムセンター)

教育センターって
どんな所
(総務)

その他
(関係機関の情報等)

注目記事

カテゴリ

2025/08/26

ライブラリーだより29号掲載

2025/07/31 調査研究

令和7年度 全国学力・学習状況
調査結果速報(香川県版)掲載

2025/07/25

ライブラリーだより28号掲載

2025/06/23 教育ライブラリ

ライブラリーだより27号掲載

サイトMap

センターWebサイトからDL可能

4 活用ツールの操作

(1) 各シートへのリンク

提供されたデータを読み込んだ後

メニューシート

クリックすれば目的のシートを表示できます。

③目次（項目をクリックしてください）

調査結果（概論）

- 1 平均正答率の推移
【小学校】 【中学校】
- 2 正答数分布、全問不正解率、解説等
【小学校】 【中学校】

教科に関する調査結果および分析

- 1 国語集計
【小学校】 【中学校】
- 2 算数（数学）集計
【小学校】 【中学校】
- 2 理科集計
【小学校】 【中学校】
- 3 英語集計
【中学校】

質問調査結果

- 1 回答結果グラフ

読み込まれたデータ

1 小学校用データ

小学校概況: R7国 R7算 R7理 R6国 R6算 R5国 R5算 R4国 R4算 R4理 R3国 R3算
問題別結果: R7国 R7算 R7理 R6国 R6算 R5国 R5算 R4国 R4算 R4理 R3国 R3算
児童質問: R7 R6 R5 R4 R3

2 中学校用データ

中学校概況: R7国 R7算 R7理 R6国 R6算 R5国 R5算 R4国 R4算 R4理 R3国 R3算

メニュー
に
戻る

平均正答率の推移

＜小学校＞
正答数分布
全問不正解率
解説等

国語集計

算数集計

理科集計

令和7年度全国学力・学習状況調査
調査結果概況 【国語】

小学校調査

目的に応じたシートを選択

「活用ツール(Excel)」による自校の結果分析 ⇒ 授業改善

問題別調査結果

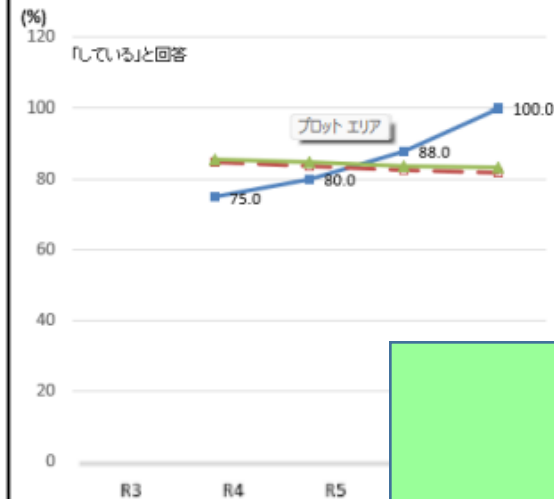
学習指導要領の内容			評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)			本校一審判		本校一全審		香川一全審	
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びの態度	知識	技能	態度	全	香	全	全	香	全	正	無	正	無	正	無	正	無	
(1)	(2)	(3)	A	B	C	知	選	選	全	香	全	正	無	正	無	正	無	正	無	
から課題を把握																				
事	事	事																		
					</															

出力されたシートから課題を把握

質問調査結果

【小学校】児童質問紙回答結果グラフ

小学校 □1 朝食を毎日食べていますか



1 朝食を毎日食べていますか

「している」と回答

小学校	食校
R3	75.0
R4	80.0
R5	88.0
R7	100.0

「している」+「どちらかといえば、している」と回答

小学校	食校	香川	全国
R3	75.0	94.3	94.9
R4	75.0	94.3	94.9

どのような取組
が成果につなが
ったのだろうか？

どのように取り
組めば、向上す
るのだろうか？

自校の取組と関連させて分析



報告書や活用ツールを利用して、
自校の取組の成果と課題を把握し、
更なる改善に向けた取組につなげましょう。

授業改善にむけて、県教育センターがサポートします。サポートの依頼は、
県教育センター教育研究課へ、お気軽にご連絡ください。